

キハ唯數奇道也、恠テ心意ノ氣味ヲ宗トシ、珍肴奇物ヲ事トセズ、安ラカナル道具ナドヲ清淨ニ成ベクンバ、數寄ハ殊絶ノ慰タルベク候、夫武士ノ道ハ、諸人ニ情ヲ深フシテ、美膳等ノ結構ヲバサシヲキ、人ノ出入多キヤウニシ、賢愚ノ品々ヲモ能々見分、舉措其所ヲ得バ、萬善日新、百惡日消スベシ、夫物毎主ル所其勤有、連歌ノ宗匠ハ、其日百韻ノ主將ニシテ、句ノ善惡ヲ味ヒ、棟梁ハ、其大屢ノ主將ニシテ、工善惡、木ノ長短、曲直ニ至ルマデ其所ヲ得、國主ハ人ノ賢愚剛弱、知之明、行之果、信之篤、國器ノ大小等能知テ、天地萬物一體ノ仁ヲ守ヲコソ、其務トハ申ベク候ヤト申上ケレバ、扱モ殘ル所ナク云ツル物哉ト、再三御褒美有ケルトカヤ、

〔總見記十〕信長公自攝州被引返於坂本對陣事

柴田モサスガ嗚呼ノ者ニテ、追カケ參ラセ、信長公ノ馬ノ轡ノ水ツキニヒシトスガリテ申上ルハ、我等ハ父土佐守ヨリ某マデ二代ノ内、合戰ニ向テ終ニ老ボレタル不調法ハ不仕候、モシ四疊半敷ノ數寄屋ヘ入テ、茶ナドヲタバ候ニコソ不調法ナル事モ有ベク候ト申システ、アザ笑テ罷歸ル、サスガノ信長公モ返答ニツマラセ給ヒテ、御詞ナク打通ラセラル、

〔茶話眞向翁乾〕或人利休居士に、茶の秘事は如何なる事か候と問けるを、居士云、茶はふくのよきやうにたて、炭は湯の沸やうに置、花は其はなの様にいけ、さて夏は涼しく、冬はあたたかにする、此外秘事なしと答へられしにて、問人不興して、夫は誰も合點のまへにて候といふに、居士云、合點ならば其如くまて見られよ、御弟子になるべしと也、

〔備前老人物語〕總じて茶の湯は世をのがれ、閑居隱者のなすわざなれば、不辨に麴相にしていさぎよきをもと、す、元來ぶどふを本とす、さればにや上田主水茶湯の會にきやく來りて、くゞりの明を待居たるに、大づゝの鐵炮を玉なしにうちはなして、客を請待せしと也、又多賀左近の雲州御在番に、茶の湯の時、はなはなくて甲をおかれしと也、皆其本をわすれぬ心なるべし、萬事お